

武蔵野市第六期長期計画策定委員会 作業部会（第10回）

日 時：令和元年5月21日（火） 午後6時58分～午後9時8分

場 所：市役所802会議室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、  
栗原委員、中村委員、松田委員、保井委員、笹井委員、恩田委員

1. 開 会

2. 議 事

（1）討議要綱への意見を踏まえ議論・確認が必要と思われる事項について

企画調整課長が、配布資料の確認と、本日の委員会の趣旨説明をした。続いて、資料について説明した。

【A委員】 私が一番気になっているのは、ハーモニカ横丁についてである。市の考えは、ハーモニカ横丁は全体バランスの中で特出しするまでのものではないとのことだが、吉祥寺のまちがどんどん没個性化していく中で、ハーモニカ横丁が際立っているのは事実で、ハーモニカ横丁を特出ししてもいいのではないか。

【B委員】 ハーモニカ横丁について、市民意見交換会で出ていた意見は老朽化の問題であり、これを建てかえるのか、別の形で再生していくのか、結構ハードの部分が大きい。その課題についての主管課が産業振興担当の部署でいいのか。

【C委員】 この10年を見据えて、まちの安全性とか建物の更新、都市の再生という意味で、どういった形での論点にするかというのは大きな課題だ。長期計画策定委員会で、方向の示唆をすることはあってもいいのではないか。

【企画調整課長】 計画案の修正履歴版59ページ、都市基盤の基本施策6「エリア特性を活かしたまちづくりの推進」のセントラルエリアのところで、建物の耐震性や老朽化の進行などという文脈の中でハーモニカ横丁についての記載があるが、市民意見としてはハーモニカ横丁の産業的な局面であったので、そちらの切り口で説明していることを補足する。

【委員長】 市民意見のときも、産業振興とか観光地だからというよりは、外国の人たちが来て、働いているのも外国人が多いということで、相当防災のことを言っていたという記憶のほうが私は強い。私は、あそこは防災上相当危ないと思っている。また、衛生面も大丈夫かなと思う。ハーモニカ横丁を魅力的にしていくためにもやらなければいけない基本的な整備があるので、特出しでもいいと個人的には思う。

【D委員】 私もハーモニカ横丁を特出しすることは大事だと思う。観光などと言う以前に、恐らく外国人が武蔵野市で働いている一番大きいエリアだ。住んでいる人も大事だけど、働いている人もこの計画には織り込んでいなくてはならない。防災や働いている外国人のケアも施策として絶対入れていくべきだ。

【委員長】 何らかの形でハーモニカ横丁はもう少し特出しをする方向性で模索してほしい。

【E委員】 計画案の修正履歴なしバージョンの39ページ、「災害への備えの拡充」は、基本的に非常によく整理されている。

一方で、前回お願いしていた災害時に市として地域情報を流すシステムの検討に関する記載がない。

【企画調整課長】 こちらの対応ではなく、今回の計画案の修正の内容に入っている。

【E委員】 システムはつくっておく必要があるが、実際に災害時に備えて、さらに外国人のことも考えたことを一体誰がやるのかというところが、前回のお話ではよくわからなかった。

【企画調整課長】 外国人の対応については、同じ39ページ、基本施策1の(3)在住外国人の支援で1つにまとめて記載しているが、情報伝達という文脈でここにしっかりとした記載がないので、そこは検討したい。

【E委員】 きっちりとした公的な情報が提供される環境にないと、人々はどう動いていいかわからない。一般市民にしてみれば、マスメディアには地域情報は期待できないわけで、やはり市に期待したい。そのシステムづくりをきっちり書き込むべきだ。

【D委員】 ビオトープの件は、市民意見交換会で出た意見だが、ざっと読んだところでは計画に書き込まれてない。

【企画調整課長】 ビオトープについては、学校改築のため、全ての学校に標準的に配置することは、場所の関係で難しい。教育委員会としては学校施設整備基本計画を今年度末に策定するので、その中で反映させていくという

ことを直前に確認した。

【D委員】 今回の意見交換会等でビオトープのことを言ったのにどうなっているのかと聞かれたときに、学校等との調整や制約があるので、まだ計画に書き込める段階にはないから書き込まなかったと言うのでよろしいのか。

【企画調整課長】 委員ご指摘の点もあるが、長期計画全体のレベル感を見たときに、ビオトープを個別に書き込むレベルにあるのかという議論もある。

【D委員】 答えとしては、特出しで計画に書くことはできなかったが、広い意味では、エコロジカルネットワークを推進すると明確にうたっているので、ご理解くださいと言えればいいのか。

【企画調整課長】 そのような答えが適切と考える。

【副委員長】 補足として、学校施設整備基本計画ですべての学校にビオトープを設置していくのは、敷地の関係や児童増加の状況からも厳しい状況である。一方で、学校施設整備は30年くらいかけて行うため、その間残るビオトープもある。そこの管理は、緑・環境分野とも密接に関係しながら行っていくところだろうと考えている。

【F委員】 ビオトープを始めたときには、恐らく長期計画にも記載があったと思う。これは、都市部でどんどん自然が失われていく中で、小さな環境ではあるが、ビオトープを各学校につくって、触れ合うことを大事にしているてもらいたいという考えがあって始められたのではないか。それがなぜ子どもと一緒に続けられなくなったのか。

もう1つ、学校の改築に関しては、個々の学校について、どんな学校にしていくのか、これからまちの人たちも含めて一緒に考えていこうという段階なのに、ビオトープをつくれな学校も当然あると、あたかも決定しているかのような見方はいかがなものか。これまでの評価や検証が必要だ。

【委員長】 今、学校はセキュリティについてかなり厳しくなっていて、地域でビオトープを守れない状況になっている。昔は誰でも自由に入れた感じがあったが、今は子どもの安全から入れない形になっており、学校に誰か他人が入ってくることをすごく嫌がる傾向が相当にある。セキュリティを厳しくして、コミュニティから離れてしまうような状況は適切ではないため、運営上の検証が必要だ。

【E委員】 検証が必要なのはもっともだと思うが、それを言い出すと、また小学校の先生の負担が増えるのではないか。検証するなら、小学校の先生がやらなくて済むことも含めてしていただかないと、先生が気の毒だ。

【委員長】 先生方の負担が増えないように、それこそ情報機器などを使ってやったらどうか。人的にやらなくても、何か方法があるのではないかと思う。

【委員長】 美術品の活用について、文化振興基本方針の方向性と合っているのか。武蔵野市にある資源を活用していくこと自体は真っ当な意見で、武蔵野市の美術活動をやっている人が何の検証もされない状況はどうなのか。そもそもあの美術館をどう機能させていくのか、これまで議論されたことは全然ないので、あくまでこれは意見だが、少し気になるところだ。

【F委員】 武蔵野市が取り組むインクルーシブ教育に対して、市民から、もっとともに過ごすことをベースにした形にシフトしていつてもらえないのかという意見が出された。分離でないことをベースにして、でも個別性があるから、個別性の高いことに関しては少し分ける形で取り組んでいくような形のインクルーシブ教育を目指すのがよいのではないか。

方向性は、ここを読む限り、今のやり方を続けると私には読める。そうではなくて、10年間の計画だから、教育の分野においても、一緒に育ち上げることをベースにするような方向性を示せないか。

【副委員長】 究極的なインクルーシブ教育は今言われた部分がとても重要で、マンパワーがたくさんあれば、全部は無理かもしれないが、かなりの部分は可能である。特別支援学校に入れるのではなく、特別支援学級という形で同じ学校の中に位置づけて、できるだけ共同学習を増やしていくという方向性が現実的なのところではないか。

まず教員側に、インクルーシブ教育にしっかり対応するための理解と、ノウハウやスキルをしっかり身につける機会を提供した上で進めていかないと、恐らく難しい。

いきなり特別支援学級を廃止して全員通常学級に入れるというのは現実的ではないので、みんなができるだけ同じ場で学ぶことを追求するというゴールの前に、まず直近でやるべきことをしっかりとやる。ただ学校に丸投げするのではなく、教員側への支援をしっかりと行い、それでもできないなら、絶対に人が足りないので、都に人員増を要求するのが順番だ。その順番をしっかりと進めつつ、「障害のある子どもと障害のない子どもが同じ場で学ぶことを追求する」、この一文だけは絶対に下げてはいけない。

【D委員】 これは教育の現場なので、都のことかもしれないが、市は支援スタッフを市民から雇って送り込む予算措置はできないのか。

【企画調整課長】 特別支援学級に限らず、学校の教員だけで賄えない部分を、市のお金を使って雇っている。

【副委員長】 配置基準よりも増やすことはできる。ただ、やりたいという人を誰でも入れてもいいのかという問題もある。人材育成をちゃんとやらな

ければいけない。

【D委員】 予算と人員だけでは解決しないが、そういう方向に動くのは悪くない。

【副委員長】 加えて、人材育成が重要。3つ全部やっていかなければいけない。学校の教員は、できれば余計な仕事は可能な限り減らして、こういうことに集中していただくのがさらに望ましい。

【G委員】 基本的に特別支援学級については、市としてはかなり支援の職員を加配している。ただ、スキルとノウハウという点については課題があり、ご本人の成長の過程での自立や社会参加をどう促していくか、個別性が高い問題だ。

【委員長】 次回、教育の部分を焦点化して考えていきたい。学校を地域に開いていくこともすごく大事なので、その点からも話をしたい。

【副委員長】 集団回収について。基本的にはこれでいいと思うが、これだけを読んでしまうと、集団回収のことは検討するが、そこで重要だと書かれていたコミュニティの役割はどこで議論するのかとなってしまうかねないので、コミュニティ部分で書き込むか、ないしはここでそのことも踏まえて負担の見直しをするということを一言加えておいたほうがいい。

## (2) 計画案素案について

【委員長】 全体の表現や表記で気になるところは、正副委員長で全体を通して最終的に直そうと思っている。とりわけ、ここはというところについて、ご意見をいただきたい。

【A委員】 事前に市の皆さんと確認したい。

まず、禅問答はやめて、書く、あるいは書かない理由をフィードバックしてほしい。本音で話して、いいものをつくっていきたい。

2つ目は、メッセージは到達主義だということを忘れないでほしい。この「等」に書かれているとか、この文章に内包されているとか、解釈できるとかいうのでは伝わらない。意外とそういう説明が多かったのが残念だった。

最後は、武蔵野市らしさを意識してほしい。ここは計画をつくる場なので、市民が、やっぱり武蔵野市の市民でよかったと思えるようなことを、意図的に強調するぐらいでちょうどいい。

策定委員意見への市の説明について述べたい。

財政計画の概要で、財政力指数のところでは、順位を書いていた。区市町村でなくて、市でもどちらでもいい。中央値は書いたほうがいい。市

ベースでの平均値がないのであれば、市町村ベースだと平均値は幾らである、と注記した上で書けばよく、中央値がないと、武蔵野市の財政力指数の高さが正しく理解できない。

扶助費に関しては、基本、武蔵野市独自のものではないということだが、1人当たり扶助費は、武蔵野市の水準は全国平均より高いのか低いのか。数字はニュートラルに評価をしていく必要があるので、数字の評価材料の記載をご検討願いたい。

子ども・教育分野の基本施策4の(2)は、ハバロフスク市青少年交流事業だけ書いている理由を教えてください。

基本施策4の(4)では、シビックプライドの醸成と地域人材の育成について、対応策をしっかりと考えていただきたい。

文化・市民生活分野の基本施策4の(2)で、武蔵野プレイスはいい施設なので、武蔵野市全体の中核施設として位置づけてやっていきたいという説明だが、であれば、具体的に書いていかななくてはいけないし、今まだ具体策がないのであれば、その方策を考えていきたいと書かなくてはならない。

一方で、武蔵野プレイスは周辺の子どもたちにもものすごい人気で、大変いい施設として機能していることを考えると、武蔵野プレイスだけでいいのかということとはちゃんと考えたい。ここはぜひ委員の皆さんで議論したいが、財政力指数にゆとりのある武蔵野市としては、理想は、子どもたちが伸び伸びと活動できる拠点を中央エリアと吉祥寺エリアにも展開していくことではないかと考えている。

都市基盤分野で、下水道の臭気対策に関しては、基本的な説明を求めたい。

生活道路のスクールゾーンに関しては、バランスが崩れても、スクールゾーンはより目立たせたほうがいいと思う。これは委員の中で議論させていただきたい。

吉祥寺をもっと特出しして書いたほうがいいのかという議論については、私はそこにこだわってはいないが、都市間競争の中で吉祥寺の衰退は明らかで、ちゃんと吉祥寺を盛り上げていかななくてはならないという方向になっていたのに、議論が本質ではないと返されてしまった。ここはしっかりと担当部局からの意見を求めたい。

行・財政分野で、投票率の向上については、若年層も含むサイレントマジョリティの政治参加のような一言でおさめるのは余りにも軽過ぎる。もっと踏み込んで書くべきだ。

シビックプライドの課題については、市民意識調査における満足度調査を、今までの3段階評価を今回は5段階でやっているため、長期推移の分析ができないとしている。そもそも、長期時系列分析が重要な調査のフレームワー

クを変更したのが問題である。ただし、今更言っても修正ができないので、窮余の策として、「満足している」を2ポイント、「やや満足している」を1ポイントと置きかえると、明らかに長期的に満足度が落ちている。そのため、この衰退については掲載すべきだ。

経常収支比率に88%のベンチマークを設けるのは、勇気を出して記載することと思うが、本当にありがたい。

【委員長】 いろいろと議論をしなければいけないところがあると思うが、議論をする時間がない。どうしても気になっているところをまず指摘して、次の回では、そこについて議論ができるのではないか。

【E委員】 「在住外国人」という言い方を、例えば「外国人市民」といった言い方にしてはどうか。外国人も市民であるという位置づけを明確にすべきではないか。

【企画調整課長】 基本的に住民基本台帳に外国人は登録されており、市民である。

【委員長】 つまり、市民だけど外国籍の人について、「在住外国人」という言い方だと排除感がある。重要な指摘なので検討したい。

【副委員長】 地域共生社会に外国人も明記すべきという意見は、特出しすべきだと考えているから書いているのであって、その観点からもう少し考えていただきたい。

都や近隣自治体との協力の重要性については、健康・福祉分野というよりは全体に関わってくるのではないか。

子どもの人権については、リード文の修正案を事務局に送ったので確認してほしい。

在住外国人支援は、外国人に対しても市民としての生活支援という部分を打ち出すことや、ICT活用等について明確に記載してはどうか。窓口にiPad1個置けば、それで簡単に翻訳ができる。まず簡単なところ、やれるところからやるだけでも全く変わってくるので、ここは少し考えていただきたい。

武蔵野プレイスの機能について、中間支援の組織でいくのであれば、ここに来れば中間支援機能が全部そろっているとしたほうがわかりやすいのではないか。

【F委員】 目指すべき姿の説明の「愛着」と「誇り」は、関わっていくことによって、愛着とか、このまちを自分たちもつくっているというプライド

のようなものが醸成されるのではないか。

基本目標の「絆」というのは言葉として強過ぎるので、検討したい。

「情報共有の原則」について、情報共有、情報公開と言われるが、判断の根拠も同時に示されないと、市民的にはわからない。行政の判断の根拠も含めて公開するべきである。

重点施策について、今回の計画でも、「駅圏」という言葉が「駅周辺」という言葉に変わっていたが、「駅圏」という考え方をもう一度、計画の中に盛り込んでいただきたい。そこで育まれているまちの雰囲気や文化のようなものがあると考えている。

健康・福祉分野の基本施策3の(6)で、メンタルヘルスの課題は、項目を分けてはどうか。

子ども・教育分野の基本施策4で、武蔵野市が目指そうとしている教育は、文部科学省が言う「生きる力」という中身でよいのか、一度ここで検討したほうがよい。もっと豊かな中身を織り込めないか。

外国人支援については、交流ではなく、支援の課題が大きくなってきているということだから、国際交流協会の活動をもっと力強く支援して、支援の部分をパワーアップしていくのがいい。

コミュニティや市民活動に対して、行政が書くものは「支援」という表現が多い。私としては、協働の原則があるのだから、協働を進めると書いていただくによりよいと思うが、支援と書く意図について確認しておきたい。

水道については、防災の観点からも、都営に一元化されても、武蔵野市のおいしい水がちゃんと供給されるような提案はできないのか。

ムーバスは、当初の目的以外の活用目的を検討してもいいのではないか。

**【H委員】** 児童館に関して、三駅圏に子育て施設があるべきだ。三駅圏に、それこそ0歳から18歳までをカバーできるような施設を考えられないか。子育てしやすいまちの武蔵野市として、そういった提案をするのが長期計画ではないか。

武蔵野市民科については、実際、学校教育でやるとしたら、教科書に載っている内容から、市民性を高める教育に使えるものをピックアップして事業計画を立てていくしかない。その場合、これが本当に武蔵野市民としてのシチズンシップを高めるための科目になるかという疑問だ。

旧桜堤小学校跡地について、どうしてもこれを載せるというのであれば、スポーツ広場の計画はあるけれども、第二中学校の建て替え用地としての可能性もあるという書き方にするほうが、第六期長期計画としては正しい。

【B委員】 基本課題と重点施策の関係で、基本課題から重点施策、そして個別施策にどう進んでいるか、若干見えにくい。武蔵野市の問題は何なのかを全体的にあぶり出すように書くなり、書きぶりをもう少し工夫したほうがいい。

具体的には、23 ページの基本課題B「まちの活力の向上・魅力の発信」で、まず、全国の地方創生の取り組みが展開されていることから始まるが、これは余り関係ないような気がする。

【委員長】 私もずっとその指摘をしている。全国のことを先に書くというのは、事務局でそれなりの理由があるのか。

【企画調整課長】 基本課題については、武蔵野市が武蔵野市の中だけのことに着目して、ほかのところを全然見てないという形になってはいけないので、まず全国の状況、社会の状況があって、その中で武蔵野市はどうかという文脈で書いていこうという合意が事前にあった。

【B委員】 社会を配慮しているという書きぶりは大事だと思うが、ここはそのように読めない。地方都市は大変だが、武蔵野市はこれからも伸びる、豊かだと読めてしまい、逆効果の書きぶりになっている。最初の2行はむしろ不要で、問題点の指摘や住民像の変化のようなことを前段は書いたほうがいい。

全国で先進的と言われる長期計画は、必ず使い手目線につくり直してある。市民から見たときに、部署ごとの施策はよいが、自分にどう影響するのかがすごく見えづらい。その見えやすさを検討していただきたい。

都市基盤関係で、外環の2と女子大通りは、先ほどの対応のところはすごく丁寧に、慎重にやりますと書いてある。それが今の計画だと、余り討議要綱と変わらないトーンになってしまっている。対応方針に書かれたようなことが起きていて、それはちゃんと理解しているということをもう少し書き込めないものか。

【E委員】 長期計画の位置づけの話で、「すべて」を取ったらどうかという提案がされて、「すべて」を除く形が今回出てきているが、まだ書きぶりが強い。条例にあるような、「ただし、速やかな対応が特に必要と認められるものは、この限りでない」といった除外条項を入れて、そこまで規定されるものではないとここに書き込むほうがいいのではないか。

### (3) スローガンについて

【委員長】 次回の作業部会までに1つ、2つ、自分の案を持ってきていただきたい。それを作業部会ですり合わせをして、案をまとめるところまで持

っていきたい。

【A委員】 あらかじめ次回の作業部会の前日までに事務局に出して、紙にまとめて配ってもらうのがいい。

【委員長】 そのような形で、次の作業部会でスローガンを決めたい。

#### (4) その他

【G委員】 次回の作業部会に参加できないので、気になるところだけ指摘したい。

基本課題については饒舌過ぎる。饒舌になることで課題が見えづらくなっている。

例えば 22 ページ、6 行目に「65 歳以上の老年人口の割合は」云々とあるが、前にエビデンスとして人口推計を載せている。前段で説明していることは削って、できるだけ課題が焦点化するように記載内容を凝縮しないと、市民は読みづらいのではないか。

27 ページ、28 ページの重点施策は 5 行程度で書いてあり、非常に簡潔である。そこには目がいくが、前段の基本課題までは読みにくい感じがした。

30 ページ、「地域共生社会の理念に基づいた啓発の取り組み」と見出しが変わっているが、これは明らかに前のほうがいい。ここは前の見出しに絶対に戻してほしい。

企画調整課長が、日程について説明した。

委員長の終了宣言により、武蔵野市第六期長期計画策定委員会第 10 回作業部会を閉じた。

以 上